

▲ 樹里安だより

ジュリアン

2013年
Vol.32



— 安行の名所 (その19) —

徳川家康ゆかりの寺院 全棟寺 《川口市東本郷868》

こんもりとした森に囲まれた寺は、安行地域では峯ヶ丘八幡神社に次いで二番目に建立された古刹である。それだけでなく、徳川家康とゆかり深い由緒ある寺でもある。

それは、家康が鷹狩りの際、たびたび休息された寺で、寺紋も徳川家の「葵紋」があたえられたこと、家康の側室とされる「お京殿」の宝篋印塔（墓塔）が祀られていることからうかがえる。

開山は文明5年（1473年）、浄土宗寺院として開基され、地元の人たちの信仰を集めた。

鷹狩りの時、寺で休息する家康の接待役を務めた娘の中から「きよ」という18歳の娘が家康の目にとまって側室となり、「お京殿」として大奥に仕えたという。

この寺は、丘陵地を切り拓いて造営されたので、シイ・カシ・ケヤキなどの自然林に覆われているが、前庭にはマキ、マサキ、ツバキ、ツツジ、モミジなどが植栽され、寺全体が木々ですっぽり包まれ静かなたたずまいを見せている。

参道のわきの木々の中にあるお京殿の墓塔には、一年中、生花が絶えることなく供えられ、古き時代の歴史をとどめている。

田中家の樹齢200年の

ゴヨウマツ

(川口市安行慈林769)

保存樹木に指定された樹木の大半は、すくっと立ち上がった大木だが、この保存樹木は珍しく盆栽形である。根本の幹は胴回り約2.3mのまんじゅう形で、その中心から直径20cmほどの幹が突き出て伸び、四方に大きく枝を広げている。樹高は2.9m超で、樹齢200年と推定され、平成12年9月1日、川口市の保存樹木に指定された。

実は、この保存樹木はクロマツにゴヨウマツを接ぎ木したものだ。先祖が試しに接ぎ木したところ10本のうち1本だけが成功したという。

保存木を所有する田中賢司さん宅は、先祖代々、大地主で広い畑を持ち、植木・庭木などの生産や卸を営んできたので大木も多い。ゴヨウマツの他、ケヤキ・アカガシも保存樹木に指定されているが、「安行寒桜（安行桜・大寒桜）」の原木を所有しているのも自慢の一つだ。

この桜は、早咲きで紅色が美しいうえ、水揚げがよく、剪定しても病気になりにくいいため、切り枝用に安行の植木屋が接ぎ木で増やして普及させた。初めは「名無しの桜」だったが、この地に根を下ろしたのだからと故 小清水亀之助氏が「安行寒桜」と名付けたという。現在は田中さんがこの原木の手入れを行い、大切に保存している。

保存木のゴヨウマツも同じことで、樹形を乱さないように毎年正月明け頃より古葉を取り除き、枝抜きをして、5月頃に芽を揃えるため、みどり摘みなどを行う。また、古い樹はどうしても新しい細根がないので、枝によっては栄養不足気味。今後は根回しや定期的に肥料を施すなど、維持管理の労力は大変そうだ。

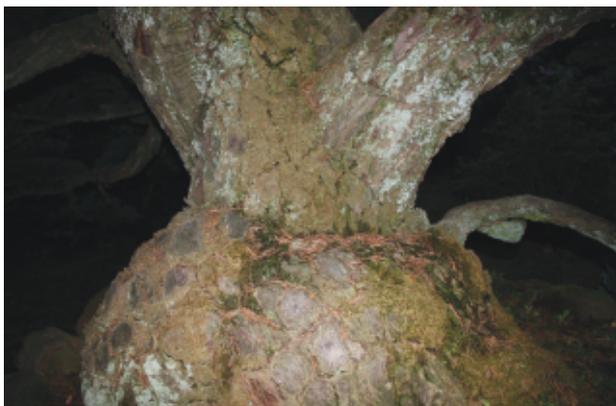
田中さんは「3本ある保存木の中では、一番手のかかる木だが、私たちと一緒に育ってきたので、今は家族同然。先祖代々の遺言は、土地・財産すべてがなくなるまでこの松は売ってはならないと言われている。手間はかかるが、玄関前の畑にどっしり構えているので、家業の看板の役割も果たしてくれるこの松、これからも家宝として大事にしていきたい」と話している。



ゴヨウマツ マツ科

(別名：ヒメコマツ・マルミゴヨウ)

- 分布 北海道南部、本州、四国、九州に分布する
- 樹高 20m～30m 直径は1m程になる
- 用途 建築材、家具材、彫刻材、楽器、庭木、盆栽など
- 樹皮は黒っぽい灰色、古い樹になると不揃いの薄片になって剥がれ落ちる
- 枝は水平にはりだし、葉は長さ2cm～6cmの針状で、名前のとおり5個ずつ束生し、全体的にも密生する
- 自然樹形は円錐形であるが、庭木や盆栽の多くは段造りなど、職人によってさまざまな形に仕立てられている
- 生育に時間が掛かり、また維持管理にも手間が掛かることから、おおぶりで見事に樹形が仕立てられたものは価値が高い
- 耐寒性や耐暑性がややあり、土壤の乾燥にもやや耐える、半面過湿にはあまり強くなく、また病害虫にも弱い面があるため、防除を必要とする場合もある



田中家の五葉松

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在地	幹周	樹高
ゴヨウマツ	マツ科	H12.9.1	129	川口市安行慈林769	2.3m	2.9m



《ケンポナシの木》

普段接する機会の少ないケンポナシを紹介したい。この木は、ケンポノナシ、ケンポガナシ、ケンボガナシ、ケンポウ、ケンポロ、ケンポノキ、ケンポコナシ等々とも呼ばれている。

安行原密蔵院の隣に位置する、安行原自然の森は、新緑、サクラ、ヤマブキ、アジサイ、花菖蒲、シャガ、紅葉、そして散策など一年中楽しめる斜面林である。その麓に一際大きくそびえるケンポナシを見ることができる。この植物の属名 *Hovenia* (ホーフエニア) は、オランダの上院議員で日本事務官であったホーフエンの名に由来している。枝は長く樹冠は広がり、幹肌は灰白色で小枝は紅色を帯びる。葉は、濃緑色の広卵形で鋭頭、基部はやや心臓形。葉は約長さ8~15cm、葉の上面は無毛で光沢があり、下面は帯白緑色で脈上に粗毛がある落葉

高木である。花は初夏、6月~7月淡緑色の小形をつける。果実は肥大した果柄の先につき、無毛で円形か広楕円形、紫褐色である。また、果実を付ける柄(果柄)が鳥の足のように屈曲し、むっちり肉を付け、11月ごろ熟すと甘く食べられる。外見は怪しげで、食欲をそそる形・色合いではないが、味はナツメや干しブドウのよう。

新訂原色牧野和漢草大図鑑では、「果実にはショ糖、ブドウ糖、シュウ酸カリ、リンゴ酸カルシウムなどを含み、利尿、解毒薬として二日酔い、嘔吐、口渇、大小便不利に用いる」と説明している。また、中国では果実以外の部位も加えた広範に利用されている。更に、世界有用植物事典では、ケンポナシの果柄が子供や野生動物の食用となり、酒の酔いをさますのに効果があるとして漢方薬や民間薬として利用されると記載されている。

木材に関しては、光沢があり、



加工性がよく材面が美しいので、家具、建築造作材などに利用されるが、大径木が少なく、まとまって出材しない。

酒を覚ます効果があることから、この木で柱を作ると家中の酒が薄くなると言われ、その為酒造りには古くから禁忌とされている。

ケンポナシの名前の由来は様々あるが、一説にはテンポナシ（手棒梨）が訛ったもので、ふくれた果柄に由来するといわれている。



ケンポナシ クロウメモドキ科 ケンポナシ属

- 学名 *Hovenia dulcis* Thunb.
- 分布 北海道奥尻島と本州、四国、九州および朝鮮半島、中国に分布
- 高さ 15~20m位 幹周り0.6m~1m 山野にはえる落葉高木
- 生長ははやく、樹姿がよいので中国では庭木として利用され、また種子は薬用として、とくに解酒の効ありとされている
- 木材は加工性がよく材面が美しいので、家具、建築造作材、楽器などに用いられる
- 日本での生産はまれで、山堀を育苗している
- 果柄が霜に当たると甘味が出て食用とされる

開業・開所祝い

イチイ

(イチイ科 イチイ属)

(常緑針葉樹・高木・陰樹・雌雄異株)



貴人や神主が手にもつ「しゃく」をこの木でつくったので、木の一位の意味からこの名が付いた。「暑天陰雨にも狂いゆがむことなし」と古書にあるように、木質がよく狂いが生じない点と、病虫害に強い点が、社運の隆盛を思わせる。「一位」の縁起も含めて、開業・開所の記念樹にふさわしい。

1. 特徴

開花期3～4月、結実期9～11月。生長はおそい。変種に低木のキャラボクがある。

2. 植えるときの注意

時期 3～5月

場所 日なたでも半日陰でもよい。

3. 管理のポイント

刈り込みに耐える。寒肥を与えるとよい。

他の木



センリョウ

常緑広葉樹
低木・中庸樹～陰樹



マツ

常緑広葉樹
高木・陽樹



ケヤキ

常緑広葉樹
高木・陽樹



ヒノキ

常緑広葉樹
高木・中庸樹



川口緑化センターの主なイベント開催結果報告

1 第73回春の安行花植木まつり

平成24年4月14日(土)～15日(日)

昨年度は、東日本大震災の影響により中止となった、春の花植木まつりを今年度は周辺の4会場と合同で盛大に開催いたしました。期間中は群馬県沼田市や川口市観光物産協会会員による物産販売や川口市華道連盟による生け花展、来場者の為の花植木オークション等が開催され、多くの来場者に好評を博し、広く緑化の普及啓発が図られました。



2 常緑樹の剪定講習会

平成24年6月22日(金)

プロの植木職人を講師に一般参加者を対象とした常緑樹の剪定講習会を今年、初めて開催いたしました。前半は剪定に関する講義、後半は実際に講師の指導の下、サザンカを剪定して剪定方法を学んでいただき、技術の普及を図ることができました。



3 第3回川口安行の植木・盆栽展 麻布十番

平成24年9月8日(土)～9日(日)

今年度で3回目となる港区麻布十番「パティオ十番」での植木・盆栽展を開催いたしました。会期中は本市特産の植木や盆栽の展示販売を始め、昨年に引き続き、銘品盆栽の展示や盆栽・植木の手入れデモンストレーション等のイベントを実施いたしました。また、多数の外国人も来場なさることから、外国人通訳を配置し、昨年度を上回る成果となりました。



4 花植木専門研修「検疫リスクのない植木・盆栽類の輸出をめざして」

平成24年9月12日(水)

植木類等の輸出検疫の際に度々問題となるカミキリムシや線虫等の防除技術や輸出の際に発生するリスクの管理方法に関する研修会を埼玉県花と緑の振興センターと共催で、開催いたしました。当日は、多くの緑化関係者が参加され大変好評でした。





川口市産業技術・技能者顕彰制度について

「川口市産業技術・技能者顕彰制度」とは川口市の産業の第一線を担う、優れた技術・技能者を顕彰することにより、その社会的地位の向上を図るとともに、技術・技能の継承及び人材の確保・育成を目的として、平成7年度から実施されている表彰制度。市内の事業所に勤める現役の技術・技能者で、卓越した技術・技能を有する方が対象である。受賞者の選定については「川口市産業技術・技能者顕彰制度審査委員会」において審査し、川口産業技術・技能者大賞(最優秀賞)と、4つの部門賞(川口耀き賞、川口技あり賞、川口グッドアイデア賞、川口チャレンジ賞)の受賞者が決定される。

川口緑化センターでは、現在まで卓越した技能を有する職人6名を推薦している。また、平成24年度は川口緑化センターで推薦した、飯村 靖史 氏が見事に最優秀賞の「川口技能大賞」を受賞いたしましたので、過去の推薦者(受賞者)と併せてご紹介する。

《平成24年度受賞結果》

No	氏 名	賞	業種
1	飯村 靖史 氏 (喜楽園)	川口産業技術・技能者大賞	盆栽師
受賞理由			
<p>自然の芸術である盆栽の中で専門とする雑木盆栽の最も評価される根張り(盤根)や、幹模様・枝配り(枝つき)など造形美をもとめ、樹形づくりに根接ぎ、枝接ぎを行う。独自の高度な技術と幅広い知識を活かし、日本盆栽協会の公認講師として、日本の文化である盆栽の普及に努め、業界の振興と発展に寄与。国内、海外から研修生を受け入れ、技術の伝承と指導育成を行っている。数回にわたりアメリカへ赴き実演等の指導にあたるなど、盆栽業界全体のレベルアップと盆栽の普及に貢献している。</p> <p style="text-align: right;">(平成24年度川口市産業技術・技能者顕彰制度 受賞一覧より一部抜粋)</p>			

《過去の推薦者(受賞者)》

No	氏 名	賞	業種	受賞理由
1 (H23)	高山 甫 氏 (安行梅松園)	川口耀き賞	造園工	造園技術全般 (作庭・植木生産・根巻き等)
2 (H20)	長嶋 守好 氏 (長嶋薔薇園)	川口耀き賞	造園工	造園技術・バラ生産技術 (作庭・芽接ぎ)
3 (H20)	横山 浩之 氏 (株)横山園芸	川口耀き賞	造園工	造園技術全般 (作庭・植木管理等)
4 (H19)	小櫃 敏行 氏 (安行小梅園)	川口耀き賞	盆栽師	盆栽生産技術全般
5 (H11)	吉沢 郁雄 氏 (吉沢椿樹園)	チャレンジ賞	植木生産	植木生産・椿生産技術 (接ぎ木)



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成25年2月1日

発行：公益財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家844-2

TEL.048-296-4021

ホームページ：<http://www.jurian.or.jp/>